

6月23日(火曜日)「主に叫ぼう」

【新改訳 2017】

詩篇 107・1－43

「この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から救い出された。……彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ。」(6－8節)

第1節には、「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」と歌われています。ですから、これは感謝と賛美の詩です。

特に、民が苦しみの中で主に向かって叫んだ時の、奇跡的な救出を感嘆しています。その例として、①荒野や荒地をさまよい、住むべき町への道を見失って衰えた時の叫び(4－9節)、②やみと死の陰の下で、捕囚の身の不自由と失望の中からの叫び(10－16節)、③そむきの罪ゆえの心身の病的状態からの叫び(17－22節)に対して、主がそ

れぞれに奇しいわざで応えてくださったことを歌っています。

苦しい時には、主に叫び求めましょう。主は、その時その時にふさわしく、奇しく応えてくださいます。そして、そのお応えに対して、忘れないで主に感謝しましょう。

～祈り～

主よ。あなたは、民の苦しい時の叫びに対して、繰り返し、恵みと奇しいみわざをなしてくださったことを感謝します。

【学びのために】

主の救いと恵みの奇しいみわざとは、何も苦しみの時だけでないことは言うまでもありません。

(参考区分) 1-3 節 序文、4-9 節 捕囚の民の感謝、10-16 節 捕囚から解放された民の感謝、17-22 節 病気を癒された人の感謝、23-32 節 船乗りの感謝。